

令和6年度日高山脈襟裳十勝国立公園協議会第3回幹事会 議事要旨

■日時:令和7年2月19日(水)14:00~15:00

■場所:WEB 会議

■議事概要

1. 開会(司会:北海道地方環境事務所国立公園課長 尼子)

2. 議事

(1)審議事項

1)日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン(2/19 案)について

・資料1ー1、論点について、事務局より説明。

<質疑等> ※→:事務局

【論点1.国立公園のテーマ及びビジョンのテーマについて】

○国立公園のテーマについて、「日本最大の原生自然の秘境」を提案する。本文中にアイヌとの関わりについては十分記述されているため、テーマにアイヌ関係のことばを入れなくても良いのではないか。また、原生流域面積の大きさは本公園の際立った特徴であり、すべての人がわかりやすい言葉であるため「原生」については残すべきと考える。

○カムイも良いと思うが、北海道には2万年以上前から人が住んでおり、彼らもずっと日高山脈を見ていたと考えられる。そのため、アイヌだけに思いを寄せるようなテーマは避けた方が良いと考える。

テーマの中に「日本最大で最後の原生自然」または「自然」を入れてはどうか。「日本最大」「最後の秘境」がテーマ。ビジョンのテーマについては「日本最大で最後の原生自然日高山脈を後世に」が私たちの意見。

○事務局が示した案に特段の異論はない。政府として、アイヌの人々を日本列島北部周辺とりわけ北海道の先住民族として認めているところ。その人々や文化に対するリスペクトというものを含めて、カムイ等の、アイヌに関する要素をテーマの中に入れて示すべき。また、「秘境」は、辞書によって解釈が様々。人跡未踏という意味もあれば、人が暮らす奥地のような意味もある。「秘境」という言葉を象徴的に使うのは構わないと思うが、この言葉をどういうニュアンスで使うのかは、協議会の中で共通認識を持っておいた方が良いと考える。

○第2回目の幹事会、現地見学会について、環境省からアイヌ文化と本公園の結びつきを協議会構成員と共有したい旨話があり、平取町で開催されたと認識している。

アイヌの精神文化やポロシリに対するお祈りなど長年行われてきたそれらの文化が本公園の自然を守っていくことに繋がると考えているため、カムイという言葉も良いと

思う。自然を守っていくことに対して、アイヌの精神文化は共通するものではないかという考えがあるため、改めて発言させていただく。

→事務局としては、平取町が言ったように、アイヌの方々の今までの精神文化と国立公園に指定されたことはとても深い繋がりがあるため、「カムイのふところ」や、アイヌの方々、文化を尊重するような言葉はぜひテーマに入れたいと考えている。

○アイヌのことについて入れていくことは重要だと考える。日高山脈のほとんどの山岳、河川名はアイヌ語由来の名称になっているところからも、アイヌの方々がいてこの日高山脈だと認識している。本文中に「カムイ」という言葉は出てこないが「ピリカノカ」という言葉が出てくる。それはアイヌ語で美しい形という意味であり、本公園内の幌尻岳、十勝幌尻岳、襟裳岬の3ヶ所がピリカノカとして指定されているため、例えば「ピリカノカ」という言葉を使ってみるのはどうか。

本公園の特徴は、日高山脈が非火山であるというところ。それから、氷河地形が残っているところなど、特徴的なところも盛り込むのが良いのではないか。

「秘境」は「原生自然」という言葉に置き換えるのがいいと考える。

→カムイという語を本文に入れるわけではなく、テーマ案の中の「カムイ」という単語を別の語に置き換えるというご提案か。

○そうである。「カムイ」という言葉を例えば本文中の価値、魅力の中に盛り込み、現在使われている「ピリカノカ」という言葉をテーマに用いるということも考えられるのではないか。ただ、「カムイ」について、「神様」という意味を持つため、その言葉の使用がビジョン上適切かは検証していく必要があると考える。

○国立公園のテーマとビジョンのテーマが非常に似ているため、少し変えてはどうか。

国立公園のテーマとして、「日本最大の原生自然が残されたカムイの秘境」を提案する。

→国立公園のテーマは、国立公園の特徴を端的に表すもの。そしてビジョンのテーマは、我々が今後どう行動していくか方向性を盛り込んだようなものになる。

→ビジョンのテーマは必ず決めるべきものではない。一方で国立公園のテーマは必ず必要なものであり、国立公園のテーマだけを決めるという選択もできる。

○ビジョンのテーマについては今の案に異存ない。「抱かれた」のような、詩的な表現でもいいと思うが、国立公園のテーマについては、もう少し日本最大の原生自然みたいなものもあった方が良さそう。また、「カムイ」という言葉はいろんな形で使われるため、果たして「カムイの秘境」という言葉が良いのかどうか。最後の秘境という感じがするため、そこを繋げたというものである。また、アイヌの方々の思いをここに表現したらどうかという提案である。

→「最後」と言ってしまうと、例えば西表島などは最後ではないのかという議論にもなってくるかもしれない。

「カムイの秘境」というのは、詩的な言葉のように思うため、そのような要素が入っていても良いものとする。

○文言整理は今出た案を元に事務局でいくつか練ってもらった方が良いとする。

「最後の秘境」というのは、「日本最後の秘境」や「世界最後の秘境」と言っているわけではなく、「カムイのふところに抱かれた」という前文があり、そういった意味での「秘境」ということでも取れるため、「最後の秘境」と書いたから日本に他に秘境がないなど、そういう話にはならないとする。

「カムイのふところ」となると、北海道では最後の秘境という意味になってしまうかもしれないが、「秘境」や「カムイ」という単語の解釈については、様々あると思うため、本日出た意見を事務局で精査、整理して、解釈について協議会で共通認識を持つ必要があるとする。

→「カムイの秘境」という言葉自体が詩的で自然科学の言葉ではないと思うため、厳密な定義は難しいかもしれないが、アイヌ協会などにも意見をいただきつつ、用法が適切か確認したい。

○国立公園のテーマは非常に大事だと考える。それから、ビジョンのテーマも将来あるべき姿であり、大事である。

アイヌの方に関して、決して無視をしたりする意見は全くない。ただ、山岳等の名前をつける前から日本の十勝に住んだ人たちは日高山脈を認識していたに決まっている。そのため、アイヌの方たちのためだけでなく、先人に対する態度も必要だと考える。

山脈の名前のほとんどをアイヌの方々がつけている。これは大事にしたい。

ビジョンのテーマはあるべき姿ということだから必要であり、「ふところに抱かれた」という言葉は非常に抽象的である。「カムイ」もそう。そういう曖昧な言葉ではなく、科学的な技術に基づいたことだけが重要。環境省も認めている、誰もが認めている「日本で最後の最大の原生自然」、それが国立公園のテーマ。そして、ビジョンは、この自然を後世に残すことが1番大事な事。そのためビジョンのテーマには、「後世に残す」という言葉を入れるべき。

これは事務局に任せるのは結構だが、事務局も困ると思う。どうするのがいいか皆さん一緒に考えましょう。とても大事な事。時間をとって構わない。

○事務局から自然科学的にどうかという話があったが、言葉の用法として「カムイの秘境」という言い方が適切かというところがあるため、専門の方にどういう意味になるのか確認した方が良い。カムイは様々なものに宿るものであり、必ずしも人跡未踏の地にのみ宿るものじゃないため、意見した。

→再度3月5日までにご意見を提出いただき、それらを引き取って考えたいと思う。

【論点2.国立公園としてのビジョンについて】

○ビジョンは将来こうあってほしいというのが大事であり、不法投棄、不法伐採、盗掘、不法建築など、そういうマナーやルールに反した行為を監視する体制が確立されているということを入れるべき。

日本のレンジャーにはないが、アメリカの国立公園のレンジャーは特権的な逮捕権まで持っている。日本のレンジャーの数が少なすぎる。この国内陸域最大の本公園には、現時点で3人のみ。レンジャーの方を当然増やすべきであり、将来的にはレンジャーの方の権限も広げていくべきだと考える。

→ビジョンは国立公園のあるべき姿を描いたものであり、個別具体的な項目はなじまない。監視体制という意味では、5(2)「●環境に回復困難な負荷をかけないように、適正なゾーニングや利用上のルール・マナーが示され、利用者や事業者はその情報が行き届き守られている」や5(3)「●国立公園外を含む本公園に関係するあらゆる人々が、本公園に誇りを持ち、本公園の価値・魅力を共有して、知恵を出し合って連携して取り組んでいる」で読めると考えている。ビジョンは前向きな表現にして、管理体制については、今後、管理運営方針や行動計画の中で盛り込んでいくというような方針でよろしいか。

→環境省の体制強化についてのご提案はありがたい。環境省の定員に関しては、環境省だけで決められるものではないため、簡単に増員するとは言えない。環境省だけではなく、その他の国の機関、市町村、NGOの皆様など、関係者が一体となって監視体制が構築できればいいと思っている。

○あくまでビジョンであり、今はとても無理だろうから、こういう柔らかい全ての人を信用する、そういう言葉で悪くはないと思う。しかし、それではなぜアメリカで逮捕権まであるのかということを考えてほしい。日本の人たちがみんながルールを守る、全てそれでいいだろうか。ビジョンであり、そんな生優しい問題ではないため、「体制が確立している」ということをぜひ入れていただきたい。

→他の国立公園のビジョンの書きぶりにそういう監視体制のことを入れ込んでいるか確認し、他の国立公園との並びも見ながら、ビジョンの書きぶりを合わせていければと思う。少し検討させていただきたい。

→厳正な保護など、そういった言葉が入っているということであるが、どういうところまで書き込めるかというのは一旦持ち帰らせていただければと思う。

○他のところを調べてから検討するのではなく、新しくできた国立公園のミッションであるため、今率先してやっていただきたいと思う。

→監視体制といった個別具体の取り組みについてはビジョンに入れられない方針だったので、検討させてほしい。

【論点3.全体の修正方針・ビジョンの構成について】

異論なし。

【論点4.今後の進め方について】

異論なし。

→3月5日までにいただいた意見をどうまとめるかというのが最大の課題ではあるが、特にそのパブリックコメントという手続きについて、異論はないということで、そのように進めたいと思う。

→パブリックコメントをかける時には、このビジョン案が公開されるため、次の修正案を提示した際に、各組織のトップまでパブリックコメントにかける前提でビジョン案の合意を取っていただきたい。また、パブリックコメントでいただいた意見を踏まえて修正する場合は、総会の前に再度各組織のトップまで確認いただき、了承いただくようお願いしたい。

【その他】

○大雪山国立公園のビジョンを作った時もそうだったが、ビジョン策定にあたって使用した資料を参照できるよう一覧として整理しておくことが必要。また、そのビジョンの冊子を作った際、コラム欄を設け、そこに関連する情報を書き込むということもした。本文とそのような追加的な情報をうまく使い分けるといいということを手務局宛にメールした。

(2) 報告事項

1) 登山道部会規約(案)について

→本規約(案)について、3回意見照会した結果を資料2別紙2に見え消しで分かるように記載している。3回目に提出された御意見は、言葉の適切な表現を正すものであり、意味合いは変わらなかったため、再照会はしていない。

資料2の規約案について、幹事会で了承をいただければ、本会で協議会総会での書面審議いただきたいがよろしいか。これ以上の修正がないか一度確認をお願いしたい。

○異論なし。

→異論なしとのことで御承諾いただいたので、3月末に協議会総会での書面審議をいただく。

2) 各構成員からの情報提供

・資料3について、北海道運輸局より説明。

3. その他

→次回の幹事会を今年の5月から6月ぐらいの時期で開催予定。また、来年度の協議会総会は6月から7月ぐらいの時期で開催予定。後日日程調整をする。

4. 閉会